

ロボット支援胃がん手術が 先進医療として認められました!



総合外科副部長 おほま かずたか
小濱 和貴

京都市立病院で実施する手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ (da Vinci Surgical System)”を用いた胃がんの胃切除術が、一般の保険診療で認められている医療の水準を超えた最新の医療である「先進医療」として全国で4番目に認められました。

先進医療はほとんどが大学病院や研究機関で行われています。臨床だけを行う病院では極めて進んだ取組です。

今回は、当院でこの胃がんのロボット支援手術を行っている総合外科副部長の小濱先生にお話しを聞きました。

Q ロボット支援手術って何ですか?

ロボット支援手術というと「ロボットが人に代わって自動で手術をしてくれる」と思われる方も多いのではないのでしょうか。しかし、このロボットは少し違います。自動で動くのではなく、外科医が3D映像を見ながら遠隔操作し、人よりも精密な動きができるロボットを操って手術をするのです。



Q 先生の手の代わりにロボットを使うということなのですね。では、ロボット支援手術の良いところは何か?

メスやカメラの小さな侵入口だけあれば手術できるので患者さんの負担が少なく済むのはもちろん、このロボットには4本のアームがあり、人の手よりも多くの関節をもっています。スムーズに動くだけでなく、手ぶれを補正し、より精密な手術ができます。さらには、立体的で高画質な3D映像で拡大して見ることができるので、直接見るよりも細部まで確認することもできます。

Q 先生が望んでいる動きができ、メスが届かないところまで届き、直接見えないところまで見ると手術もより精度が高くなりそうですね。患者さんへのメリットはありますか?

主には2つあります。

1つめは、「合併症を減らすことができる」点です。手術後は、お腹の中に膿が溜まるなどの合併症が起り、回復に時間がかかってしまうことがあります。ロボット支援手術では、従来の方法よりも合併症が少ないという研究結果がでています。

2つめは、「再発を減らす可能性がある」点です。高精度の映像でより細部まで確認でき、従来の手術では届きにくかった所までロボットの手が届くので、とりにくかったがんまできれいに取り除くことができるからです。

先進医療とは

特定の大学病院などで研究・開発され、実施されている医療技術のうち、厚生労働大臣の承認を受けたもので、安全性や治療効果が確認され、さらに今後、保険診療への導入が検討されている医療技術のことを「先進医療」といい、実施される医療機関も大学病院などに限られています。

費用について

先進医療にかかる部分の費用は、患者さんが全額自己負担することになりますが、診察、投薬、入院料などは保険診療が可能であり、一部負担分については高額療養費制度^{※1}の対象にもなります。

	先進医療部分	
全体	保険診療部分	一部負担分
		保険給付分

■ …患者さんの負担分^{※2}

※1 医療費が、暦月（月の初めから終わりまで）で一定額を超えた場合に、その超えた金額が支給される制度。区役所等での申請が必要です。

※2 患者さん負担分の一部はダヴィンチメーカーが負担します。



ロボット支援手術は外科医であればだれでもできるのですか？



外科医であっても資格や訓練が必要です。

特に、今回認定を受けた先進医療は、厳しい条件^{※3}を満たした外科医だけが行うことができます。京都市立病院以外では藤田保健衛生大学、佐賀大学医学部付属病院、静岡がんセンターにしか認められていません。

※3 条件：①「日本消化器外科学会消化器外科専門医」「日本内視鏡外科学会技術認定医」「DVSS Certificate（手術支援ロボットの認可）」の3つの資格を取得していること。
②10例以上のロボット支援胃がん手術の経験があること。



大学病院や専門の医療機関ばかりですね。

はい。市立病院のように臨床だけ行う病院ではとても珍しいことなんですよ。



先進医療って少し不安という方もいると思いますが、安全性はどうですか？



先にも述べたとおり、先進医療は安全性をしっかりと確保するため、厳しい条件を満たした医師だけに認められています。

また、当院では、前立腺がんで100例以上、胃がんで20例以上のロボット支援手術を行っており、手術スタッフも十分にトレーニングされていますので、安心して手術を受けていただけます。



すでに多くの患者さんがロボット支援手術を受けておられるのですね。最後に、小濱先生から一言お願いします。



京都市立病院の消化器外科は、腹腔鏡や胸腔鏡などの患者さんの身体への負担が少ない低侵襲手術を行ってきましたが、今回新たにロボット支援手術が加わり、より多くの治療の選択肢を提供できる病院になりました。

ぜひ、私ども京都市立病院にご相談ください。様々な治療方法の中から、より良い方法を一緒に考えましょう。